



かるがも

<https://www.pref.chiba.lg.jp/kodomo>

2024年〈令和6年〉10月



台風7号

病院長 皆川 真規



令和元年台風15号（「令和元年房総半島台風」と命名）は、関東地方に上陸したものとしましては観測史上最強クラスの勢力で千葉県を直撃し甚大な被害をもたらしました。特に広範囲かつ長期にわたる停電の発生は、台風被害の大きさを知らしめ、政府・自治体、公共交通機関などの基本的スタンスを、「便利になることへの追求」から「安全」へ大きく転換させたように思います。8月16日夜に最接近した令和6年台風第7号は、当初この台風と同等の被害も想定されていました。JRが前日のうちに計画運休を発表したこともあり、16日午後の予約外来診療を休診にする方針を迅速に決定することができ、その後の備えにつなげることができました。これは患者さん皆様のご理解とご協力があったことで、医療の提供を絶え間なく続けるには、医療者と患者さんとの共通理解が大事なのだということをあらためて認識したところです。

予防の大切さ

診療部長 星野 直



診療部長の星野直です。2001年に感染症科の研修医として千葉県こども病院に着任しましたが、この20年余りで、小児感染症診療は転換期を迎えました。ゲームチェンジャーとなったのはワクチンです。私が当院に着任した当時、日本はワクチン後進国と揶揄されている時代でした。欧米で用いられている複数のワクチンが、日本には導入されていなかったからです。そのような中、2008年にインフルエンザ菌b型ワクチンが、2010年に肺炎球菌ワクチンが導入されました。導入後数年で、多くの子どもたちを苦しめてきた細菌性髄膜炎が激減したのは周知の通りです。他にもいくつかのワクチンが定期接種化され、また、一部のワクチンの接種方法が見直されたことで、麻疹や水痘、ロタウイルス感染症など、以前は外来を賑わせていた感染症がほとんど見られなくなりました。また、今年の6月には、妊婦さんにワクチンを接種し、生まれてくる赤ちゃんのRSウイルス感染症を予防するワクチン（母子免疫ワクチン）が導入されました。このような新たな動きも始まっています。

さて、私は当院に着任後、長期に渡り病院内の感染管理を担当しています。また、今年から医療安全のサポートもすることになりました。感染管理、医療安全の対策には、感染症診療と共通する部分があります。それは「予防」の重要性です。院内感染も医療事故も、発生を未然に防ぐことが最も効率的な対策であり、基本となります。対策を機能させるためには、マニュアルや体制をしっかりと整備しておくことが欠かせません。そして、より重要なのは、職員一人一人が、日頃から院内感染や医療事故が生じないように行動し、診療にあたることです（感染管理の領域では、この考えを標準予防策と呼びます）。いずれの対策にも、ワクチンのように即効性のあるゲームチェンジャーはありませんが、現場主導で対策が進むような組織風土を醸成していかなければなりません。

最後になりますが、千葉県こども病院は、県の予防接種センターとして、ご病気のあるお子さんのワクチン接種や、予防接種相談を受け付けています。後者については、患者さんだけでなく、医療機関や行政の担当の方からの相談もお受けしています。予防接種についてお困りのことがありましたら、お気軽にご相談ください。

循環器内科

皆さん、こんにちは。循環器内科です。

循環器内科は、心臓や大血管に病気を持ったこどもたちの診療を行っています。どのような病気が対象かという、先天性心疾患、心筋炎、心筋症、不整脈、肺高血圧症、川崎病などの他に、他科の先生方が診療している様々な病気に関連して起こった心臓や大血管の病気などです。

先天性心疾患に対する診療は、開院当初から最も力を注いでいます。小児心臓手術は、心臓血管外科、新生児科、集中治療科の先生方と常に連携しながら行っており、県内随一の小児心臓手術件数と国内トップクラスの手術実績を挙げています。

近年カテーテル治療の進歩は目覚ましく、小児においても様々な治療が行えるようになってきました。外科手術に比べて負担が少なく、胸に手術の傷跡が残らないなどの多くのメリットがあります。当院は県内唯一の小児カテーテル治療認定施設であり、心房中隔欠損症や動脈管開存症のこどもたちのカテーテル治療を数多く行っています。

また、胎児心エコー検査を積極的に行っています。胎児心エコー検査はお母さんのおなかにエコーをあてて、赤ちゃんの心臓の状態を詳しく調べる検査です。生まれてすぐに具合が悪くなることが予想される心臓病だとわかれば、計画を立てて分娩に臨むことができ、生まれてすぐに治療を開始することができます。

成人移行期医療や遠隔地医療といった問題を抱えたこどもたちのために県内外の多くの病院と頻繁にカンファを行い、病院や職種の垣根を超えた連携を目指しています。

「患者様に最良の医療を提供する」をモットーに循環器内科一丸となって日々情熱を持って診療にあたっていますので、今後ともよろしくお願いします。

- 1 氏名 2 出身地 3 こども病院の好きなところ
- 4 医者になってなかったら? 5 ストレス解消法
- 6 休日の過ごし方



- 1 東 浩二(ひがし こうじ)
- 2 長崎県
- 3 こどもファーストのところ
- 4 実家の呉服店を継いでいた
- 5 お笑い鑑賞 寝る
- 6 犬の散歩



- 1 石井 徹子(いしい てつこ)
- 2 東京都
- 3 全部
- 4 コンビニ経営(自宅はコンビニ)又はクライマー
- 5 クライミング ボルダリング
- 6 岩登り、岩そうじを山梨、長野の方面でやっています



- 1 前田 佳真(まえだ よしちか)
- 2 岡山県
- 3 スタッフが一丸となってこどもと向き合っているところ
- 4 おそらくぶどう農家です。祖父のあとを継ぐことになったと思います
- 5 とにかく美味しいものを食べる
- 6 映画をみたり、美味しいものを食べたり、リラックスしてすごします



- 1 佐藤 要(さとう かなめ)
- 2 福岡
- 3 みんな頑張っている
- 4 何かしら医療が子どもに関わる仕事をしているかも…?
- 5 ストレスを人に話して消化
- 6 子どもと遊ぶ



- 1 矢野 瑞貴(やの みずき)
- 2 神奈川県
- 3 スタッフが優しい
- 4 映画関係の仕事
- 5 銭湯へ行く、甘いものを食べる
- 6 スポーツ観戦



- 1 西畑 綾夏(にしはた あやか)
- 2 神奈川県
- 3 スタッフがみんな優しい
- 4 保育士又は小学校の先生
- 5 スイーツを思う存分食べる
- 6 睡眠・買い物

遺伝科

遺伝科は千葉県こども病院における小児内科系診療部門です。染色体や遺伝子の変化によって生まれもった特徴をもつこどもの診断や、疾患情報の提供、最適な遺伝学的検査の提案、健康管理を行うとともに、遺伝に関わる事柄に対し、ご家族が抱える心理社会的問題への支援を行います。

遺伝科では人の多様性を尊重した社会につながる遺伝医療を診療理念としています。そして、分かりにくい遺伝のはなしを分かりやすく伝える遺伝医療を目指すとともに、想定外の出来事に対するご家族の心的負担を支える遺伝医療を重要視した診療を心がけています。

こども病院ですので、初診は原則15歳までとしております。16歳から20歳の方はその都度ご相談させていただきます。

緊急対応が必要なお子さんやご家族には、受診日時を調整いたしますので、当院代表電話から直接お問い合わせください。

先天性・遺伝性疾患をもつこどもの健康管理と育児支援はこども病院だけでは完結することが難しく、開業医の先生方や基幹病院の先生方、療育施設、地域の福祉資源との連携を欠かすことが出来ません。ご紹介いただいた後も、是非診療連携のほどよろしくお願い申し上げます。その際の情報提供を当科が行うことはもちろんですが、ご不明点がございましたらいつでもお問い合わせください。

- 1 氏名
- 2 出身地
- 3 こども病院の好きなところ
- 4 医者になってなかったら？
- 5 ストレス解消法
- 6 休日の過ごし方



- 1 井上 毅信(いのうえ たかのぶ)
- 2 東京都
- 3 他診療科・他職種と連携しやすい
- 4 何かの職人
- 5 電車でどこかに出かける
- 6 家族ですごく



こども・家族支援センターへようこそ!!

こども・家族支援センターとは

当院に通院中の患者さんとそのご家族の支援部門として2009年に設置されました。入院時から退院した後も地域社会の中で療養しながら生活し、成人になっても必要な医療やケアが継続できるようになるまでを支援します。センターは「地域医療連携室」「入退院支援室」「患者・家族相談支援室」「ボランティア室」「成人移行支援室」「病床管理室」で構成されています。センター長とその補佐である医師、看護師、医療福祉相談員(MSW)、子ども療養支援専門員(CLS)、事務員の人員が配置されています。



入退院支援室の紹介

私たちは、患者さんの退院後の生活を見据えて病棟スタッフが入院早期から退院支援を行うように働きかけ、多職種と協働して退院調整を行っています。また、地域や関係機関等との調整を行い、切れ目のない支援と顔が見える関係を築いていけるよう心掛けています。

患者さんやご家族が安心して退院できること、そして患者さんの笑顔を見ることが何よりのやりがいです。



地域や関係機関等の方々からのご連絡をお待ちしています!

- *当院に入院予定がある、入院中である、在宅療養しているなどの患者に関する相談
- *入院中のケアの指導内容の確認
- *在宅医療機器に関すること
- *紹介や転院前に当院の情報が知りたいなど
- *情報提供があった内容の確認
- *医師の指示内容の確認



問い合わせ先 電話もしくは患者相談窓口「こども・家族支援センター入退院支援室看護師」宛

受付時間 9:00~17:00 (日祝日、年末年始を除く)



緩和ケア認定看護師

「小児の緩和ケア」とは・・・

対象は、すべての疾患の子どもとその家族です。

子どもと家族の QOL（生活の質）を大事にして、身体的な痛みだけでなく、心の痛みや社会的な悩み・不安についてトータル的な苦痛の緩和をめざします。そして、緩和ケアは診断時から提供され、治療後も継続されていく必要があります。自宅での看取りや、人工呼吸器などの医療的ケアが必要な場合、自宅で過ごせるように地域と連携し、安心して自宅で過ごせるように調整します。また、家族が休めるようにする「レスパイトケア」や、「看取りのケア」・亡くなった後にその悲しみが少しでも和らぐようにする「グリーフケア」も含まれます。

「痛さやつらさは我慢しないで教えてね」「一緒に頑張れる方法を考えよう」 子どもと家族の良き伴走者でありたい

普段は外来に所属し、採血や診察の介助をしています。月に2回、緩和ケアチームでラウンド活動をしています。子どもと家族が辛い思いを我慢せずに言えるような環境をつくり、様々な気持ちに寄り添いながら希望を支えています。

その子らしく過ごせるように、多職種チームで考えていきます。



子どもが「頑張ってきた体験」にするために / 採血・注射の痛みに向き合う？ ～子どものやる気を引き出そう～

病気の治療には、痛みを伴う検査や処置が必要な場合があります。その中でも、子どもたちは「針」を使う採血や注射が大嫌いです。「痛み」は人それぞれ感じ方が違います。我慢する子もいれば、針を刺す前から痛がる子もいます。

検査や処置をする前から痛がるのは、過去に受けた検査や処置が「痛くてつらかった体験」として記憶に残っていて、その恐怖心から、痛みを感じやすい状態になっている事が原因です。

また、幼い頃から痛い体験を繰り返していると、少しの痛みでも強く痛さを感じてしまい、「痛がり」になるという事がわかってきました。あらかじめその痛みに対処しておく、痛みが緩和されることがあります。

その方法をいくつか紹介させていただきます。



- ★ なぜ必要なのかを知らせておく
- ★ 嫌だ・怖いという気持ちを聞く
- ★ 動かないなど頑張る事を伝える
- ★ 抱っこや深呼吸でリラックス
- ★ おもちゃやタブレットで気をそらす
- ★ 頑張ってきた事をほめる
- ★ 優しく抱く・体をさするスキンシップ



- ★ 痛くないとウソをつく
- ★ 欲しい物を買ってあげるからと誘う
- ★ 嫌な思いを聞かずに我慢だけさせる
- ★ できない事を怒る
- ★ 口をきかないなど罰を与える
- ★ 側に居てほしい人と引き離す

泣いてもいいよ。
でも、動かないようにしようね。

息を
フーッ
てして

できるかも！

痛みを伴う検査・処置に不安のあるお子様についてご相談ください

痛みと怖さは早くに対処する事が大切です。場合によっては、痛みどめのテープやクリームを使う事も出来ます。また、どうしたら頑張れるのか一緒に考えてくれる「チャイルド・ライフ・スペシャリスト」や院内の「こどものどんな痛みもサポートチーム」もあります。子ども達が痛みや怖さを克服していこうとする力を信じて支援しています。お近くの病院スタッフまでお声がけください。

千葉県こども病院 緩和ケア検討委員会 「こどものどんな痛みもサポートチーム」





GERMANY

ドイツ留学記

第3回

海老原知博

[Institute of Neurogenomics, Helmholtz Zentrum München
(前職：千葉県こども病院 新生児科)]

皆さん、ご無沙汰しております。ドイツ、ミュンヘンに留学中の海老原です。シュパーゲル(白アスパラ)が告げる春が過ぎ、夏に入り21時過ぎまで明るい日が続いています。

今回も日々のよもやま話をいくつか共有させていただきます。まず、研究室のみんなで屋外のビアガーデンに行った時の話です。蜂がたくさん寄ってくるので振り払おうとすると、同僚が「罰金取られるから気をつけて」と笑って教えてくれました。ドイツでは自然保護法で蜂(蝶とか他の昆虫も)を許可なく殺すことが禁じられているそうです。昆虫だけではなく動物に対しても優しい国である印象があり、電

車やレストランでは犬を連れている人を多く見かけます。みなよく躡けられていて、公園ではリードなしで散歩していることが多いようです。犬を飼う際には税金を払わないといけないうで、野良犬も見たことがありません。次に、雨が降った時の対応ですが、些細な雨だと傘をささない人が多いです。勿論、土砂降りでは屋根があるところに避難していますが、日本人の感覚だと普通は傘をさすんじゃないかと思う程度でも、フードを被ったりして歩いている人が多いです。お隣のドイツ人の子供がアパートの入り口で雨に濡れているのを見た時に傘を貸してあげようとしたのですが「僕は砂糖じゃないから雨にあたっても溶けないから大丈夫」と流暢な英語で返してくれた時は驚いて、思わず「そうだね!」と返してしまいました。最後に、研究室のセミナー(3ヶ月おき程度で研究の経過を発表する場)でのことですが、発表が終わった後にみんなが握り拳で机をゴツゴツ叩くことがあります。一説によると、大学にて教授の授業が良かったことに対して学生が拍手を送ろうとしたけれど、片方の手にペンを持っているために両手で拍手ができない代わりに行われたのが始まり、だそうです。初めての発表で机をゴツゴツされた時は驚きましたが、2回目からはゴツゴツしてもらえるように頑張ろうと思うようになりました。



(<https://sakusakuranoheya.amebaownd.com>より抜粋)

ドイツでは指で数を数える時に親指から始めます。4の時に薬指がつりそうになるのは私だけではないと思います。こんなに綺麗に薬指が伸びませんよね。

(写真はtogetter.comより引用)